

- ・留学期間：1 年次 春期
- ・所属学科：総合社会学科

私たちは 3 月初旬より約 3 週間カナダのカムループスにある、トンプソン・リバーズ大学（TRU）へ短期留学をした。初めての留学であったため最初は期待よりも不安の方が大きかったが、TRU の先生方やホストファミリー、留学と一緒にいったクラスメートたちが色々サポートしてくださったおかげで無事終えることができた。今回の留学を期に内面的にも大きく成長したことを感じ、行ってよかったと思える 3 週間であった。

## ホストファミリーとの生活

ホームステイでは一般家庭の暮らしの中に実際に入り、カムループスの人々は普段どのような生活を送っているのかを間近で体験することのできるとも貴重な経験となった。食事や洗濯、休日の過ごし方など日常的に日本の生活とは異なることがたくさん身の回りに溢れており興味深く感じるが多かった。また、当然のことであるが日本語は一切伝わらないため必ず英語を使って意思表示をしなければならない。しかし、日を重ねるごとにホストファミリーたちが何を話しているのか、何を問いかけているのかを段々と理解できるようになったり、受け答えができるようになったりと少しずつではあるが英語能力が上達する一番のきっかけとなった場であるように感じる。現地での文化を直に知ることができ、ネイティブな発音を聞くことができるため今ではホームステイをして本当に良かったと思う。

## 勉強以外にも多彩な体験

アクティビティでは、チュービングやスキー、スノーボード、アイススケートなどを行ったりアイスホッケーの試合を観に行ったりとカムループスの冬の盛んなスポーツを実際に見て体験する機会がたくさん設けられていたため、勉強の息抜きとしてスポーツを楽しむことができる。日本ではアイスホッケーがあまり主流ではないため、間近で試合を観ることができる機会はとても貴重だと思った。

第二に、日本文化センターや科学センターなどさまざまな施設を見学した。日本文化センターでは、館長に対して個々で考えてきた質問の質疑応答や日本の雛人形、着物など数多くの伝統的展示品を見て回りカムループスと日本（宇治市）とのつながりの深さを感じた。カムループスの街中の至る所に寿司屋やラーメン屋などの日本食店があり、日本の食文化が海外でも少しずつ受け入れられていることを感じていたが、日本の伝統的な品々までもが日本文化センターに保存されていたことを知りとても感銘を受けた。第三に、現地の装飾品であるドリームキャッチャーを手作りで作ることができた。ほぼーからの手作業であったため、途中分からないことがあっても専門の方や先生方が詳しく教えてくださり完成することができた。ドリ

ームキャッチャーの意味や使い方なども同時に学ぶことで多文化を知ることができた。

## 異文化交流イベント「iDays」

私たちが参加した iDays とは、世界の踊りや音楽を披露するという大学のイベントである。これは 85 か国を超える留学生が在籍している大学ならではの一大イベントであり、さまざまな多国籍の伝統的な音楽や言語、文化などに触れることのできる良い機会である。その国一つ一つに特徴があり、多様性の素晴らしさに改めて気づくことができる。私たちは日本人を代表してよさこい踊りを披露した。日本の伝統的な着物や音楽を世界中の国の人々に発信していくことはとても日本人として誇らしく感じた。さらに、iDays が行われた体育館の中にはインドや中国、イタリアなどいくつかの国の伝統料理を食べることができる。現地ではしか味わうことのできない料理をこの場で食べることができるため食の違いにも触れられた。

## 現地の子供たちとの交流

私たちは滞在中に短期大学幼児教育学科のプログラムの一つである、School Visit に参加した。これは実際に現地の幼稚園や小学校へ行き、考えてきた出し物を生徒たちに授業として発表するという企画である。どの学年の小学生にも喜んでもらえるような出し物にしたいということから、日本の有名な歌を二曲披露し、それぞれの生徒の名前を当て字で漢字表記にしてプレゼントするという内容にした。小学校の先生たちや生徒たちも一緒になって歌を歌ったり、私たちが当て字にして書いた漢字でさえも意味を教えると喜んでくれたりと出し物の準備から練習から何もかもが急なことであったのにもかかわらず、想像以上の反応がもたらえたことが個人的に嬉しかった。

## TRU で日本語を勉強する学生とも交流

大学の授業では、主に日本とカナダの特徴や常識、衣食住などを比較したり、ゲーム形式でカナダ特有の言語を勉強したりとクラスメートと助け合い楽しみながら学ぶことのできる授業が多い。中でも印象的だった授業は、日本語を教えている授業へ私たちが参加したことである。大学で日本語を習っている学生たちと英語や日本語を混ぜながらコミュニケーションをとることは、お互い言語を学習している身として通じ合うものが多くあったように思う。私たちが今まで母語として当たり前のように話してきた日本語が、国境を越えて違う国で生まれ育った多くの人々にも第二、三言語として学ばれていることが不思議に感じた。現地の大学生と貴重な時間を過ごしたことで自分自身の価値観も変わり、お互いの異文化を尊重し合うことはとても大切なことであると思った。

## 多様な文化のなかで生きること

カムループスには、多くの人種が移住をしたり留学をしたりしているため多国籍な人々が街中にも大学にもあふれている。そのため日本とカナダだけではなく他の国の言語や文化、伝統などのさまざまな違いをも直で感じ、異文化をお互いに理解することのできる研修であったと思う。今まで私たちが生まれ育ってきた地から離れ、日本という国を初めて客観的に見つめ直すことでグローバルな視点から物事を考えることができるようになった。一つの物事に対して他のいくつかの側面からでも見方があるということを知り、今回のカナダ留学での経験はこれからの将来にも活かしていきたいと思う。

## 少しの勇気をもってコミュニケーションを

個人的に反省すべき点は、ホストファミリーとの会話の時間をあまり作ることができなかった点である。向こうから毎日のように質問や挨拶などたくさん声をかけてもらうことがあったが、聞き取りや受け答えをすることに必死になってしまい、コミュニケーションが上手くとれなかったように思う。投げかけられた質問に対し一言や二言だけで終わらせてしまったり、翻訳機を使って楽に解決したりするのではなく、ジェスチャーや知っている単語を並べるだけでもいいので、会話を続けたいという意思を相手に示すことをより大切にすべきであったと思う。授業の面でも、自分が話している文法や英単語が間違えることを恐れて積極的に発言する回数が減ってしまったように感じる。勇気を出して発言をすることで新たな自分の間違いに気づくことができるため、積極的に発言してコミュニケーションをとっていくことが自分の学びに繋がると思う。また、現地で英語を学ぶために留学に来ているにもかかわらず、先生が何を指示しているのかを聞き逃してしまった際や授業内で分からないことがあった際などにクラスメートに日本語で解説してもらったこともあった。しかし、分からないことがあれば直接先生に質問しに行くことが何よりも大切なことであり、語学力向上への一歩だと思えた。まずは、自分から行動に移さなければこの研修に来た目的が曖昧になってしまうため、積極的な行動が求められているのではないだろうかと思う。